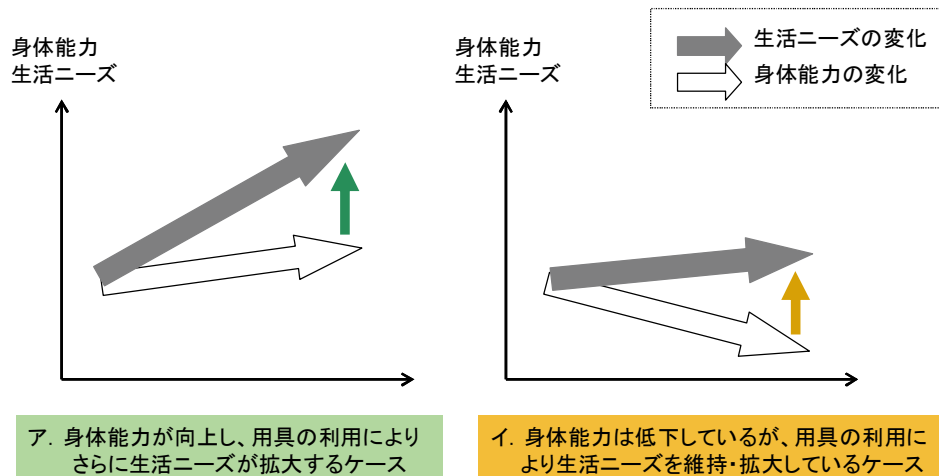


## 4. 事例の紹介

利用者の状況に応じて適切な用具を利用することで、利用者の生活の質を向上することができます。ここでは収集した事例について、**身体能力と生活ニーズ**という観点から、効果的な福祉用具利用のパターンを次のように大きく2つに区分して整理しました。



以下では、8つの事例を通して、効果的な交換・追加利用のポイントをご紹介します。

### ア. 身体能力が向上し、さらに生活ニーズが拡大するケース

|     | 起居動作関連      | 歩行・移動関連      |
|-----|-------------|--------------|
| 事例1 | 床ずれ防止用具の返却  | 手すり・歩行器の活用   |
| 事例2 | 特殊寝台・付属品の返却 | 手すりの活用       |
| 事例3 | 特殊寝台・付属品の交換 | 歩行補助つえの活用    |
| 事例4 | 体位変換器の返却    | 車いすの交換（機種変更） |

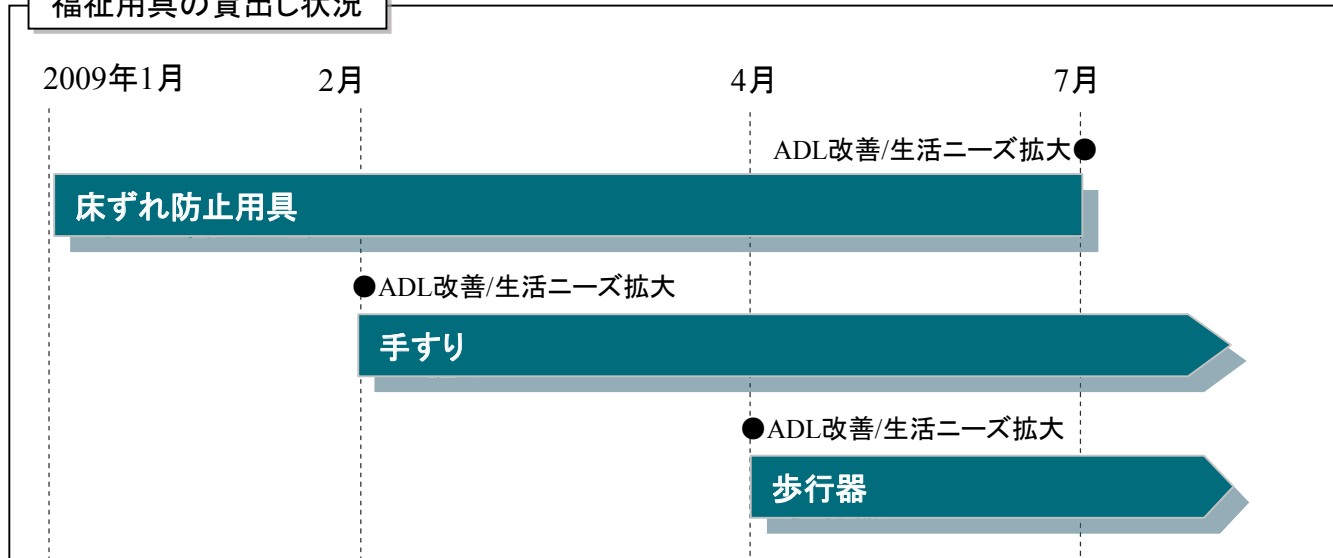
### イ. 身体能力は低下したが、生活ニーズが維持・拡大しているケース

|     | 起居動作関連             | 歩行・移動関連          |
|-----|--------------------|------------------|
| 事例5 |                    | 歩行器を返却し、車いすを利用開始 |
| 事例6 |                    | 歩行補助つえ⇒歩行器⇒車いす   |
| 事例7 |                    | 歩行器を返却し、車いすを利用開始 |
| 事例8 | 特殊寝台を交換、床ずれ防止用具を返却 |                  |

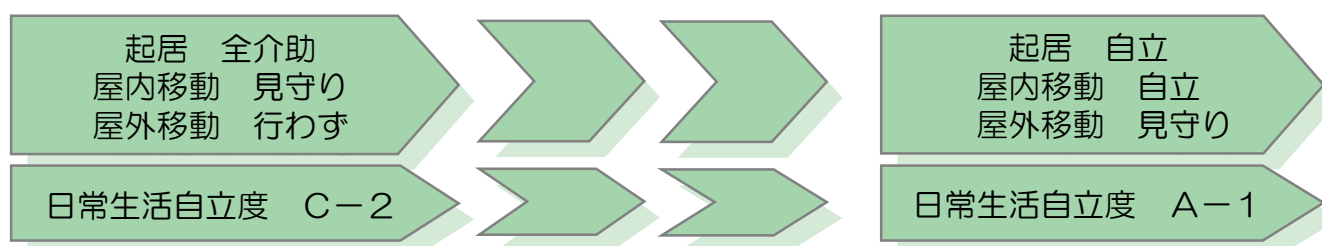
# 身体能力が向上し、さらに生活ニーズが拡大するケース

■ 91歳 女性の事例 （要支援 現疾患：なし 認知症：軽度）

## 福祉用具の貸出し状況



## 福祉用具利用の効果



※C-2：1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。自力で寝返りをうたない。

※A-1：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。

ADL悪化により、床ずれ防止用具の利用を開始。その後、ADL改善・生活ニーズ拡大に伴い、床ずれ防止用具・手すり・歩行器の利用し、床ずれ防止用具は返却。

### ○利用者にとっての効果

- ・床ずれ防止用具・手すり・歩行器を利用することで、起居、屋内移動が一部介助から自立になった
- ・起居が自立したため離床した生活をするようになり、歩行が自立したため自由に好きなところへ行けるようになった
- ・手すりの利用により離床機会が増え、床ずれ回復の一助となり、歩行器の利用により長距離・長時間の離床が自然と身についた

### ○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、起居、排泄、食事、更衣、移乗、屋内移動で負担が軽減し、楽になった
- ・介護時間が削減できた

## 身体能力が向上し、さらに生活ニーズが拡大するケース

■ 70歳 男性の事例 （要介護2 現疾患：左下肢動脈閉塞 認知症：なし）

### 福祉用具の貸出し状況

2008年12月

2009年6月

2009年12月

特殊寝台

ADL改善/生活ニーズ拡大●

特殊寝台付属品

ADL改善/生活ニーズ拡大●

手すり

### 福祉用具利用の効果

起居 見守り  
屋内移動 見守り  
屋外移動 見守り

日常生活自立度 A-1

起居 自立  
屋内移動 自立  
屋外移動 自立

日常生活自立度 J-2

※A-1：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。

※J-2：何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。隣近所へなら外出する。

ADL悪化により、特殊寝台、特殊寝台付属品および手すりの利用を開始。その後、ADL改善・生活ニーズ拡大に伴い、特殊寝台、特殊寝台付属品は返却。

#### ○利用者にとっての効果

- ・ 特殊寝台を利用することにより、起居、移動が見守りから自立に向上
- ・ 利用者自身の生活行動が意欲的になった

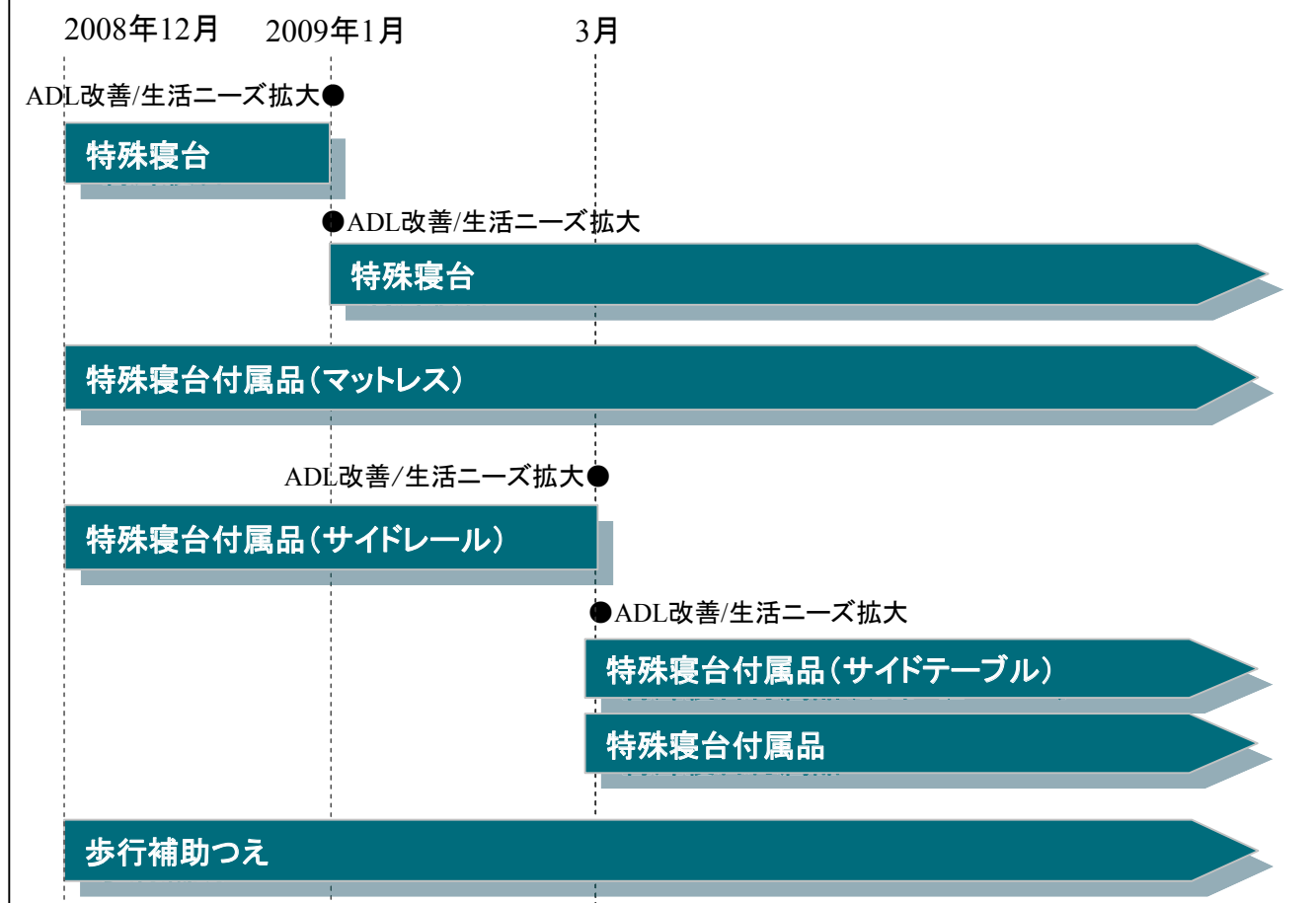
#### ○介護者にとっての効果

- ・ 介護者の負担としては、起居、入浴、更衣、屋内移動、屋外移動が楽になった
- ・ 介護時間が削減できた

## 身体能力が向上し、さらに生活ニーズが拡大するケース

■ 66歳 女性の事例 （要介護2 現疾患：なし 認知症：なし）

### 福祉用具の貸出し状況



### 福祉用具利用の効果

起居 一部介助  
排泄 一部介助  
移乗 一部介助

起居 自立  
排泄 自立  
移乗 自立

ADL改善/生活ニーズ拡大により、特殊寝台、特殊寝台付属品、歩行補助つえの利用を開始。その後、ADL改善・生活ニーズ拡大に伴い、特殊寝台を交換、特殊寝台付属品を交換・追加。

○利用者にとっての効果

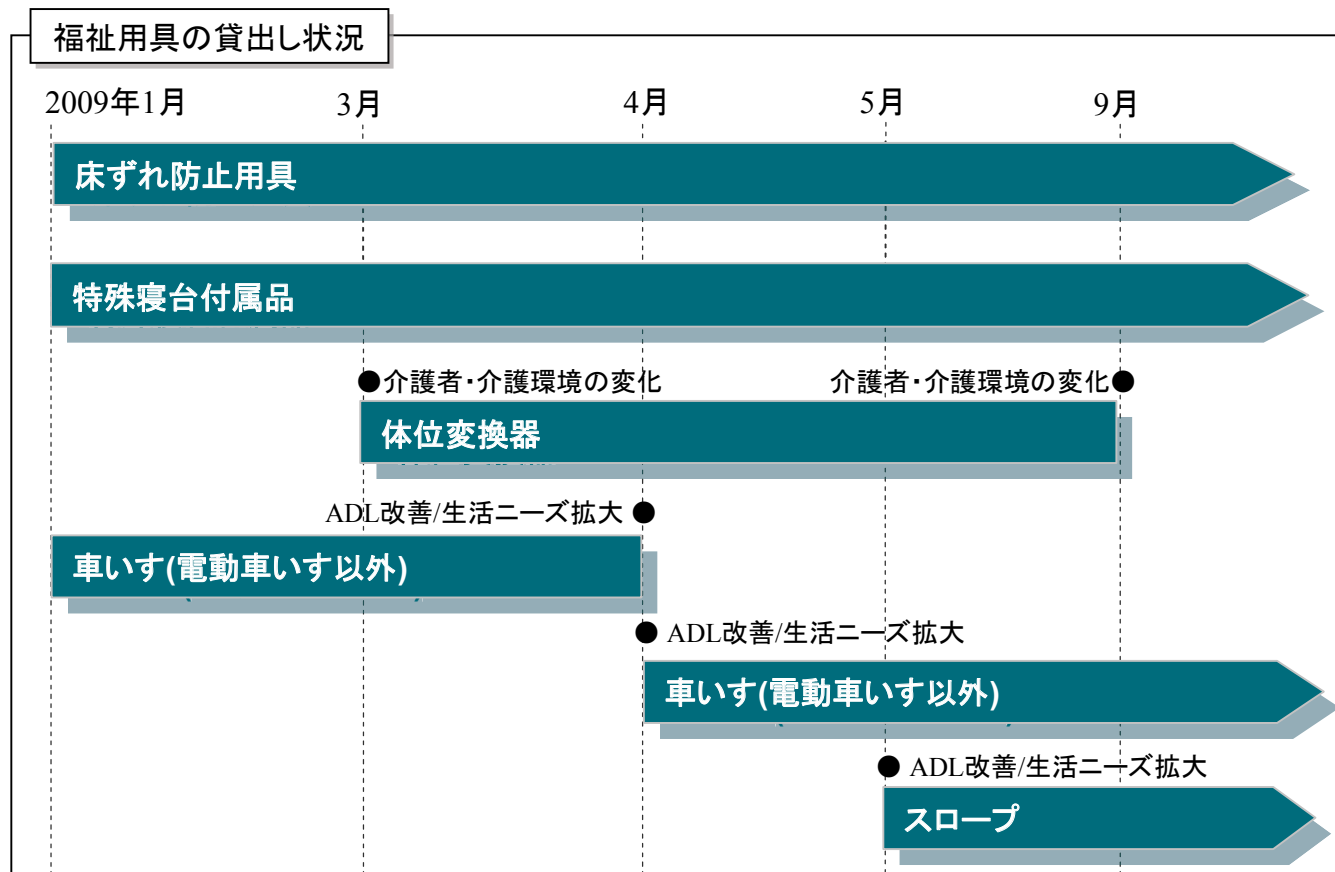
- ・ADL改善に伴い、特殊寝台や歩行補助つえなどを利用
- ・歩行補助つえを利用することにより、起居、排泄、移乗が一部介助より自立に向上した

○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、起居、排泄、移乗が楽になった
- ・介護時間が削減できた

## 身体能力が向上し、さらに生活ニーズが拡大するケース

■ 84歳 女性の事例 （要介護5 現疾患：リウマチ 認知症：軽度）



## 福祉用具利用の効果

起居 全介助  
食事 全介助  
移乗 全介助  
屋内移動 全介助  
屋外移動 全介助

起居 全介助  
食事 一部介助  
移乗 全介助  
屋内移動 全介助  
屋外移動 全介助

導入初期の適合・調整、ADL改善/生活ニーズ拡大により、床ずれ防止用具、特殊寝台付属品、車いす（電動車いす以外）の利用を開始。その後、介護者・介護環境の変化に伴い、体位変換器を追加・返却。ADL改善/生活ニーズ拡大に伴い、車いす（電動車いす以外）を交換、スロープを追加。

## ○利用者にとっての効果

- ・床ずれ防止用具・車いす・特殊寝台付属品・体位変換器・スロープを利用することで、食事が全介助から一部介助になった
- ・車いすなどを利用することにより、外出の頻度が増加した

## ○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、起居、排泄、食事、屋外移動で負担が軽減し、楽になった
- ・介護時間が削減できた

## 身体能力は低下したが生活ニーズを維持・拡大している事例

■ 94歳 男性の事例 （要介護1 現疾患：なし 認知症：軽度）

### 福祉用具の貸出し状況

2008年12月

2009年8月

ADL悪化●

歩行器

●ADL改善/生活ニーズ拡大

車いす  
(電動車いす以外)

### 福祉用具利用の効果

起居 一部介助  
排泄 一部介助  
屋内移動 一部介助  
屋外移動 一部介助

起居 見守り  
排泄 見守り  
屋内移動 見守り  
屋外移動 見守り

日常生活自立度 A-1

日常生活自立度 J-2

※A-1：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。

※J-2：何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。隣近所へなら外出する。

ADL改善/生活ニーズ拡大により、歩行器の利用を開始。その後、ADL悪化に伴い、歩行器は返却し、ADL改善/生活ニーズ拡大のため、車いすの利用を開始。

#### ○利用者にとっての効果

- ・車いす（電動車いす以外）、歩行器を利用することにより、起居、排泄、屋内移動、屋外移動が全介助から一部介助に向上
- ・生活行動が意欲的になった

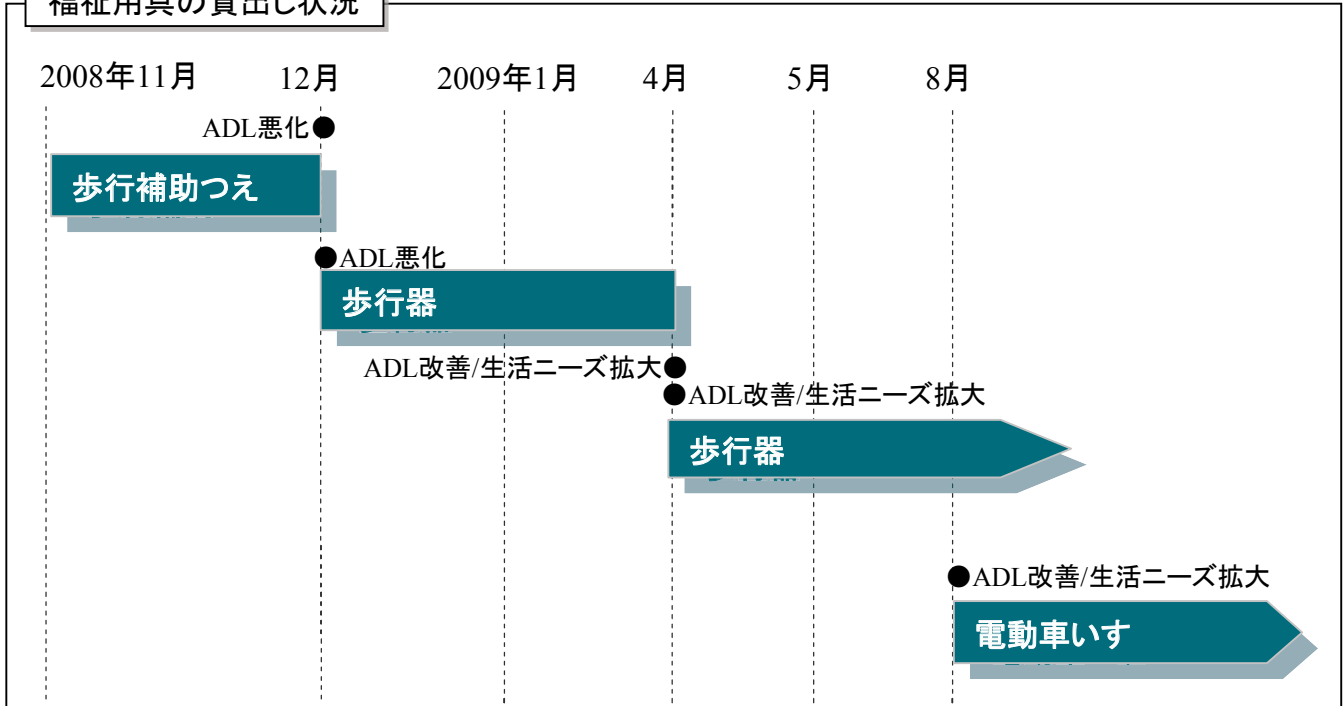
#### ○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、起居、排泄、屋内移動、屋外移動が楽になった
- ・介護時間が削減できた

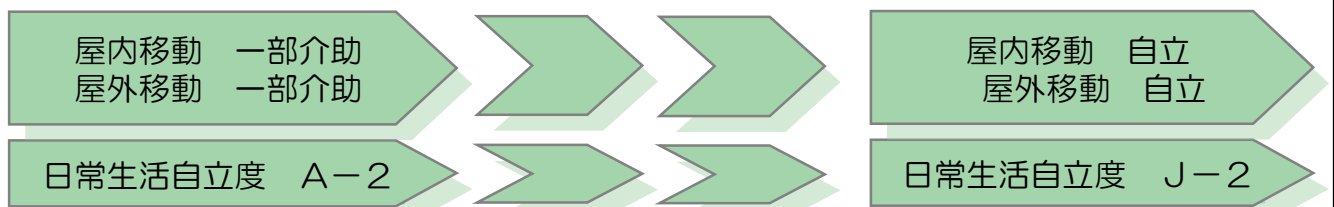
## 身体能力は低下したが生活ニーズを維持・拡大している事例

■ 73歳 女性の事例 （要介護2 現疾患：右大腿骨骨折 認知症：なし）

### 福祉用具の貸出し状況



### 福祉用具利用の効果



※A-2：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。外出の頻度が少なく、日中も寝たきりの生活をしている。

※J-2：何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。隣近所へなら外出する。

導入初期の適合・調整により、歩行補助つえの利用を開始。その後、ADL悪化に伴い、歩行器の利用を開始し、ADL改善/生活ニーズ拡大に伴い、歩行器を交換。ADL改善/生活ニーズ拡大に伴い、電動車いすの利用を開始。

#### ○利用者にとっての効果

- ・歩行補助つえ、歩行器、電動車いすを利用することで、屋内移動、屋外移動が一部介助から自立になった
- ・生活行動が意欲的になった

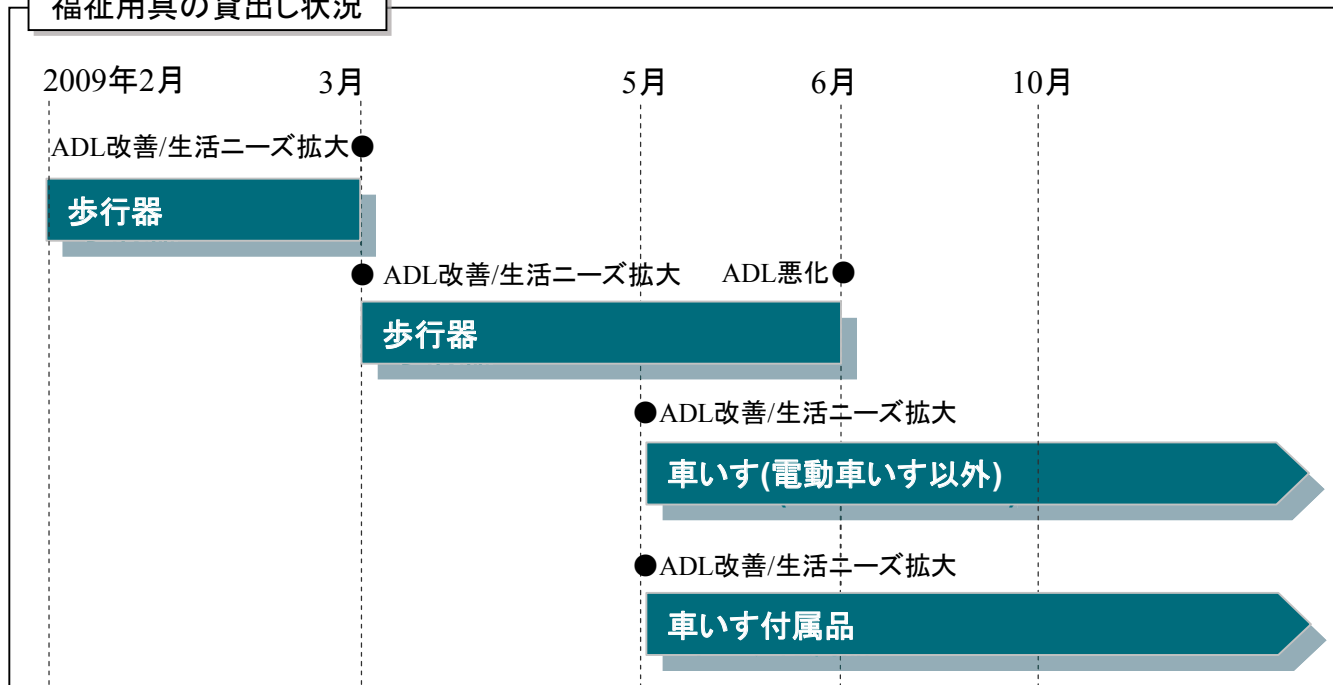
#### ○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、排泄、食事、屋内移動、屋外移動で負担が軽減した
- ・効率の向上にもつながり、介護時間が削減できた

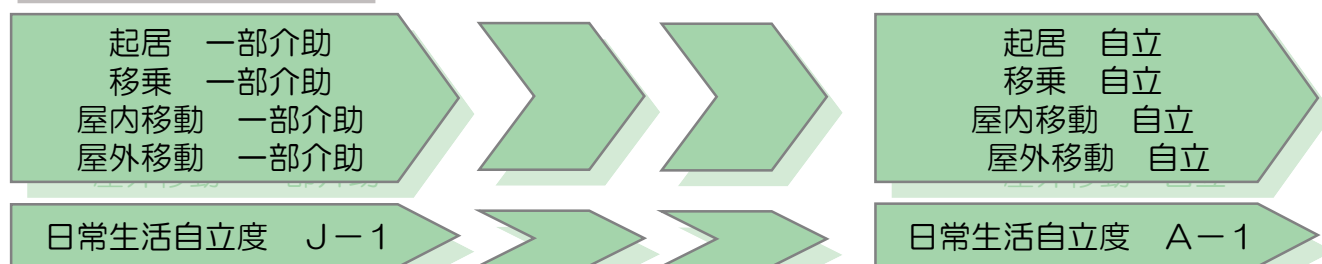
# 身体能力は低下したが生活ニーズを維持・拡大している事例

■ 74歳 男性の事例 （要介護3 現疾患：後縦靭帯骨化症 認知症：なし）

## 福祉用具の貸出し状況



## 福祉用具利用の効果



※J-1：何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。交通機関等を利用して外出する。  
 ※A-1：屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。

ADL改善・生活ニーズ拡大により、歩行器の利用を開始。その後、ADL改善/生活ニーズ拡大に伴い、歩行器を交換。ADL改善・生活ニーズ拡大に伴い、車いす（電動車いす以外）、車いす付属品の利用を開始し、ADL悪化に伴い歩行器を返却。

### ○利用者にとっての効果

- ・歩行器・車いすを利用することで、起居、移乗、屋内移動、屋外移動が一部介助から自立になった

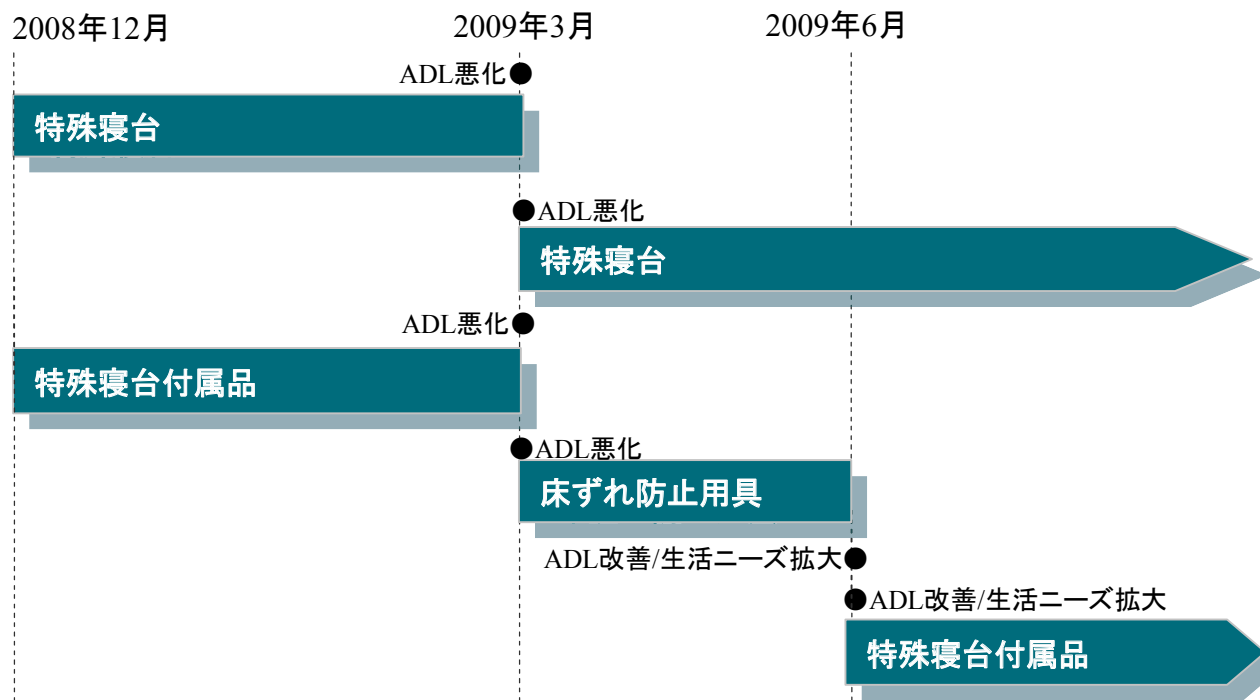
### ○介護者にとっての効果

- ・介護者の負担としては、起居、排泄、食事、移乗、屋内移動で負担が軽減し、楽になった
- ・介護時間が削減できた

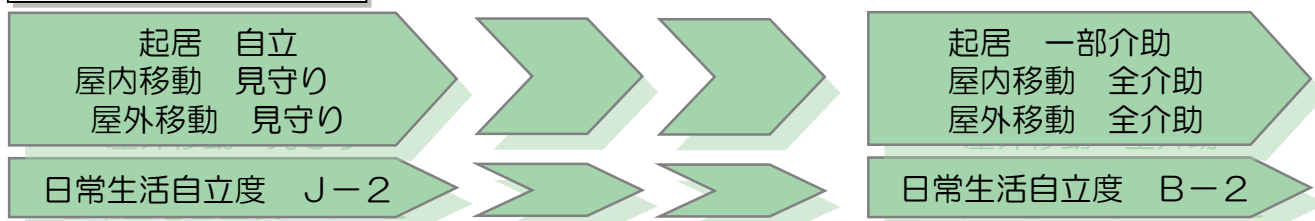
# 身体能力は低下したが生活ニーズを維持・拡大している事例

■ 97歳 女性の事例 （要介護3 現疾患：腰部脊椎管狭窄症 認知症：中度）

## 福祉用具の貸出し状況



## 福祉用具利用の効果



※J-2：何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。隣近所へなら外出する。

※B-2：屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド状での生活が主体であるが座位を保つ。介助により車椅子に移乗する。

ADL悪化により、特殊寝台、特殊寝台付属品の利用を開始。その後、ADL悪化に伴い、特殊寝台付属品を交換、特殊寝台付属品を返却、床ずれ防止用具を追加。ADL改善/生活ニーズ拡大に伴い、特殊寝台付属品を追加。

### ○利用者にとっての効果

- ・ 特殊寝台を利用することにより、起居が自立から一部介助となるが、動作が円滑になり安定性をはかれた
- ・ 移動、移乗、起居動作を安全に行うことができ、腰痛などの痛みの緩和、転倒の危険を回避できている。寝たきりの生活にならないことにより、福祉用具利用前と同じ生活リズムを保ち、本人の活力の維持、認知症の進行を防止できている。

### ○介護者にとっての効果

- ・ 介護者の負担としては、起居、更衣、移乗、屋内移動、屋外移動が楽になった
- ・ 介護時間が削減できた